



京都部会(第15回)

日時: 2012年7月27日(金)19:00~21:00

場所: 同志社大学 光塩館

参加者: 篠原総一(同志社大)、西村理(同志社大)、川上敏和(同志社大)、下村和平(山城高校)、
大谷和海(関西大学中高等部)、奥村光太郎(伏見中学校)、嶋田大(数研出版)【順不同】

【内容要旨】

- (1) 今回の参加者は7名であった。まず初めに、経済教育ネットワークの篠原総一代表者から、8月に開催予定の「先生のための夏休み経済教室」の各会場における申し込み状況についての報告があった。
- (2) 続いて、経済教育ネットワークのメンバーである川上敏和氏よりパーサ・ダスグプタ著『一冊でわかる経済学』についての紹介があった。最近、話題になっている「倫理と経済」や「公正」に関する示唆に富む内容になっている。本書の主要テーマの1つが、経済と制度の関係についての解説であり、もう1つが不平等に関する記述で、「平等と効率性のトレードオフ」の思い込みから市場経済が批判されることが多々あるが、共同体における不平等も深刻な問題を引き起こすことがあり、盲目的に共同体を賛辞することの危険性を指摘された。
- (3) 最後に、篠原総一氏が公民(経済)の教え方というテーマで、「仕組み」学習の提案について報告された。まず、公民の見方、考え方の基本に据えられている「効率と公正」について、「市場は不公正であり、政府は公正である」という既成概念を払拭すべきだと強調された。また、生徒たちに教える際に、「もし×××がなければ」という問い掛けの必要性、たとえば、「もし銀行がなければ、どんな不都合が起きるか」を問い掛けて銀行の役割を考えさせるようにすることが大切である。

(文責: 西村理)

次回開催予定: 2012年10月26日(金) 19:00~21:00(暫定的で日程が変更される場合もある)